2022.7.1
No. 10

フードバンクＴＡＭＡ会報

食を必要とする“１人”のために

特定非営利活動法人フードバンクＴＡＭＡ
〒191-0062 日野市多摩平 2-12-4
TEL:080-6814-3657
Email: foodbank.tama@gmail.com
URL: http://www.foodbank-tama.com

コロナ禍におけるフードバンクをめぐる変化

新型コロナウィルス蔓延に伴い、私たちのフードバンク活動は著しく変化しました。実態数値を示します。受贈食品量は 19 年度＝28 トン、20 年度＝56 トン、21 年度＝120 トンに。また、寄贈食品量は 19 年度＝27 トン、20 年度＝68 トン、21 年度＝111 トンで、受贈・寄贈とも毎年約 2 倍の伸びになっています。受贈企業･団体数は､19 年度＝24 件､20 年度＝33 件、21 年度＝58 件に伸びています。伸びた背景は、新型コロナの影響で企業・団体では SDGｓ・CSR への意識が広がったのではないかと推測していますが、何より各社・団体が当団体の活動に共鳴していただいたものと考えています。感謝にたえません。この間、受贈食品の種類も野菜や冷凍食品、更に生活物資が増えました。

一方、食品の寄贈先施設・子ども食堂等の件数は、19 年度＝51 件､20 年度＝78 件､21 年度＝100 件となっております。昨年度の食品提供の市別割合は、八王子市＝27%、日野市＝34%、立川市＝6%、多摩市＝9%、昭島市＝8%、その他の市＝15%となっており、多摩地域西部にある施設・子ども食堂への食品提供が 85%となっています。寄贈量が増えた要因は、子ども食堂などがフードパントリーに軸足を移したことが大きく、そのために一世帯当たりの食品提供量が増加したからだと思います。

このような実態は、当フードバンクが食提供のハブ拠点に育ってきたことを意味し、いわば中核的フードバンクの役割を果たしていると評価されるようになりました。

とは言え、5 市の児童福祉施設や子ども食堂、生活困窮者への食支援活動をして中核的フードバンクの役割を果たしているとは面映ゆくて到底言えないが、支援先の市を 8 市に拡大するとしたら、年間 320 トンもの量が必要となり、企業への食品提供依頼もかなり積極的にしなければなりません。また、その為には、今のストックヤードは 1.5 倍ほど必要で、運営資金を確保するために企業への寄附金依頼や効果的なクラウドファンディングを講ずることになるでしょう。更に、その食品をさばく為に、スタッフも増員せざるを得ません。

私たちは、中長期的には中核的フードバンクの構築を目指してはいますが、理念的には正解であっても、人・カネ・モノはそう簡単に条件が整いません。コロナ禍を経て一気に拡大しましたが、今後は、少しずつ発展させることが必要と考えています。

これまで、和気あいあいと活動を続けてきましたが、人の和を大切にして着実に前進していく日々でありたいと願っています。どうか、今後のご協力をお願いいたします。

山口　喜一郎（日野市・フードバンク TAMA 理事）

これからも元気いっぱい続けます！

フードバンク TAMA でボランティア活動を行っていた友人に誘われて、2016 年 12 月からフードバンク TAMA の活動に参加させていただきました。最初に担当したのは、毎週水曜日に日野市のパン屋さんから閉店後にパンをいただいて、八王子市内の無料塾の学習会場へパンを届けることでした。約 2 年半担当させていただきましたが、毎回パンを持って学習会場のドアを開けると勉強中の子供たちが、こちらを向いて嬉しそうな笑顔で迎えてくれました。

仕事が終わってからの作業でしたので、辛い時もありましたが、子供たちの笑顔を思うと頑張ろうという気になりました。

また、仕事が休みの時に時々施設に食品を届ける活動も行いました。新型コロナ感染症の影響などで非常に厳しい経済状況が続いている昨今、生活困窮者が急増しています。特に影響を受けているのが、母子家庭であると思われます。失職や収入減に見舞われた母子家庭の母親が食を抜いて子どもに食をあてがうなど､深刻な状況が続いているようです。

このような状況の中､「SDGs の取り組み」や「食品ロス」が問題となり､「食品ロス削減推進法」が施行されるなど、食品ロスに関して社会的に意識が高まり、私たちフードバンクの活動に注目が集まるようになってきました。

実際にフードバンク TAMA では本年 5 月には約 15 トンの食料を配布させていただきました。これは、昨年 5 月の 8 トンと比べると倍近くに増えています。

私たちフードバンク TAMA の食支援の活動は、母子家庭や貧困家庭の生活意欲の増進や家庭生活の潤いを保つ効果があると思います。また、家庭における食の確保は、子どもたちの精神面や体力面で前向きな効果を発揮するものと思います。

これからも「子ども達の未来のために」、ボランティア活動を続けていきたいと思います。

金子　進（八王子市・食品担当ボランティア）

食品企業様や個人の方から多くの食品が届けられました。ありがとうございました。

受贈

主食：52281 キロ	野菜 :31368 キロ	調味料 :8365 キロ	飲料 :7319 キロ	菓子等 :5228 キロ

2021.10 ～ 2022.5 の間、児童福祉施設・子ども食堂等へ寄付した食品の種類

提供

主食 :50317 キロ	野菜 :30190 キロ	調味料 :8052 キロ	飲料 :7045 キロ	菓子等 :5032 キロ

大学生からフードバンク TAMA 様へ　感謝をこめて

毎月お世話になっております。白梅学園大学・短期大学（小平市）です。本学は対人援助職（保育士、特別支援学校教諭、社会福祉士など）の養成校です。学生数約 1,200 名の小規模校ですが、約 1 割が年収 380 万円以下の家庭です。そして 16 人に一人がアルバイト等で学費（約 110 万円）を全額賄っています。その状況がコロナ禍で急変しました。アルバイトに入れなくなっただけでなく、家庭の経済状況もあおりをうけました。結果、今まで見えていなかった困窮問題が表面化しました。

早速フードバンク TAMA 様にご連絡したところ、すぐに支援の手を差し伸べてくださいました。2020 年 12 月のことです。それから毎月、様々なご支援を頂いています。物資を配布する会場は旧女子寮の一角で、努めて明るい雰囲気になるよう配慮しています。誰でも立ち寄れるように敷居を低くすることで、ターゲットの困窮学生達が素知らぬ顔で入ってこられるようにするためです。学生達の中にはスーツケース持参で目一杯詰め込む人、親と電話で話しながら品物を決めている人、兄弟の分も持っていって良いか尋ねてくる人、そして、そっと実情を訴えてくる人など、学生相談のきっかけ作りにも役立っています。

フードバンク TAMA 様には女子学生が多いこともご配慮頂き、食品だけでなく生理用品や化粧品などもご寄付いただきました。特に生理の貧困が問題になっている中、そのご寄付は学生達から大変な反響でした。昨年のクリスマス直前にはクリスマスケーキのご寄付も頂きました。小平市のスクールカウンセラーにも連絡し、一部を困窮家庭の小学生宅に配達して頂きました。連絡を受けた後、その子は嬉しくて家の前でずっと待っていたそうです。サンタクロースの格好をした本学の理事がケーキを手渡してくれました。他にも玄関のドアが開きやすくなったご家庭もあったそうです。

本当にフードバンク TAMA 様にはいくら感謝してもしきれません。本学ではのべ 844 名の学生が参加しました。毎月、学生の手書きのメッセージカードをお送りさせて頂き、学生の生の声をお届けするのが、せめてものお礼となっています。

松田　佳尚（白梅学園大学／短期大学・前学生部長）

配送ボランティアに参加して

フードバンクの配送ボランティア活動に参加してちょうど一年になりました。ボランティアに参加したきっかけは、毎年繰り返してきた食料の廃棄でした。頂き物として送られてくる食料が好みの食品でない場合、いったん保管して気づくと賞味期限が切れてしまい、その都度廃棄する生活に申し訳ないとの思いがだんだん募ってきたのです。さらに前年の春、コロナのパンデミックが発生して人々の生活に大打撃を与え、特に生活に困窮している家庭の窮状がニュースでたびたび取り上げられるようになっていました。

そこで今年こそはフードドライブに余った食料を寄付しようと受付窓口を探してネットで検索したところ、市の社会福祉協議会のホームページにたどり着き、さらにフードバンクで配送ボランティアを募集しているのを見つけたことから、初めてボランティア活動に参加しようと思い立ちました。

実際に参加してみると、フードバンクの職員の方が献身的に活動されていて、大変感銘を受けました。そして依頼されるままに、食料を受け取りに赴き、市内の倉庫で仕分け作業を行い、こども食堂に届ける活動が始まりました。

実際に参加してみて初めて知ったことは、多くの企業や個人の方から実に様々な食料の寄付があり、毎週毎週新たな作業が発生することでした。また配送ボランティアに参加される方の数が思いのほか少なく、少数で手際良く作業をされていることでした。また食料の届け先であるこども食堂運営者の方は、みな別の本業を営んでいて、忙しい日常の中で時間を割いてこども食堂を運営されている姿でした。フードバンクのボランティア活動では、生活に困窮している方たちに直接触れる機会がありませんので、こども食堂の方から、食料配布を受けた方の喜びの話を伺えると、とてもうれしく励みになっています。

これからも運転ができる限り、配送ボランティアを続けていきたいと思います。

吉田　健二（多摩市・配送ボランティア）